

【報告】

公立大学法人神戸市看護大学第 2 期中期目標の策定に向けた取組状況

1. 趣旨

公立大学法人神戸市看護大学が令和 7 年度から 6 年間に達成すべき業務運営に関する中期目標を市長が定めるにあたり、現在の取組状況を報告するもの。

2. 根拠法（地方独立行政法人法）

第二十五条

3. 設立団体の長は、中期目標を定め、又はこれを変更しようとするときは、あらかじめ、評価委員会の意見を聴くとともに、議会の議決を経なければならない。

3. 検討状況

令和 6 年 5 月 17 日

第 11 回公立大学法人神戸市看護大学評価委員会（中期目標案の検討）

4. 第 2 期中期目標（案）の策定の考え方

（1）概要

○看護大学の使命

保健・医療の教育研究拠点として、学術の発展と市民の健康・生活の質の向上に寄与する。

○使命を果たしていくための主な取り組み

①豊かな教養と専門性を備えた実践力のある看護人材の育成

現場のニーズに対応した地域への看護人材の着実な供給

②新型コロナウイルス感染症の経験も踏まえた災害や感染症にも対応できる人材の育成

人的資源や教育研究成果の絶えまない市民への還元、及び地域貢献活動の精力的な展開

③教職員が働きやすい環境の整備

(2) 目標期間

令和7年4月1日から令和13年3月31日までの6年間

(3) 全体構成

第1 中期目標の期間

第2 豊かな教養と専門性を備えた実践力のある看護人材の育成と地域への着実な供給

1 入学者選抜及び学部教育

2 大学院教育の充実

3 学生への支援

4 優秀な学生の確保と市内への看護人材の供給

第3 大学ブランドの強化・向上

1 地域課題の解決や市の政策課題への貢献を担う、学術研究の推進

2 市民との連携・交流による、地域の保健医療への貢献の推進

3 グローバルな視点を培う、国際交流の推進

第4 業務運営及び財務内容の改善

1 効率的で機動的な組織運営体制の構築による地域の発展への貢献

2 自立した看護職者の育成に必要な基礎教育の教育環境の整備・充実

3 自己点検・評価による質の改善、情報公開による透明性の確保

4 心身の健康と安全の確保、危機管理体制の整備、ハラスメント行為の防止

5 多様な自己収入の確保・充実と経費の適正化

(4) 第2期中期目標(案)で新たに追加する項目

新たに下記の内容を明記。

① 豊かな教養と専門性を備えた実践力のある看護人材の育成

現場のニーズに対応した地域への看護人材の着実な供給

・ディプロマポリシー(卒業認定・学位授与の方針)など学内の基準を達成するための学修支援を実施する。

・市内に看護人材を着実に供給するため、市外も含めてさらなる優秀な学生の確保に取り組むとともに、市内医療機関等への就職・定着の取り組みを強化する。

○数値目標設定

- ・国家試験合格率 100% [2023年度実績：看護師 98.9%、保健師 100%]
- ・学生アンケートによる大学生生活全般についての満足度
学部生 90%以上（かなり満足及びほぼ満足） [過去5か年の平均86.8%]
院生 80%以上（かなり満足及びほぼ満足） [過去3か年の平均77.1%]
- ・就職希望者の市内就職率 65%以上 [2023年度実績：65.1%]

② 新型コロナウイルス感染症の経験も踏まえた災害や感染症にも対応できる人材の育成

人的資源や教育研究成果の絶えまない市民への還元、及び地域貢献活動の精力的な展開

- ・新型コロナウイルス感染症の経験も踏まえ、災害や感染症にも対応できる人材を育成する。

③ 教職員が働きやすい環境の整備

- ・教職員が意欲的に働くことのできる環境を整備するため、働き方改革を推進するとともに、DXの活用など業務プロセスの改善を進める。職員の継続性と専門性を高めるため、固有職員の配置・育成を進め、組織の強靱化を図る。
- ・大学の特色・強みを明確化するため、データについて調査・分析を行うIR（インスティテューショナル・リサーチ）を推進し、効率的な大学運営を行うとともに、教職員及び学生の人権意識の向上を図る。

5. 今後のスケジュール（予定）

- ・令和6年6月20日～7月19日
市民意見募集（パブリックコメント）の実施
- ・令和6年7月31日
第12回公立大学法人神戸市看護大学評価委員会（本文案の報告）
- ・令和6年11月議会に第2期中期目標を提案

（参考）評価委員名簿

氏名	職歴
高見澤 恵美子	関西国際大学保健医療学部教授
船山 仲他	神戸市外国語大学名誉教授

◎松 田 暉	思温病院特別顧問・大阪大学名誉教授
松 山 康 二	公認会計士松山康二事務所
丸山 美津子	兵庫県看護協会会長

◎は委員長

中期目標 第1期・第2期（案）比較

第1期中期目標	第2期中期目標（案）
目次	目次
前文 第1 中期目標の期間 第2 社会的ニーズに対応した幅広く高い能力を持つ、看護人材の育成 1 入学者選抜及び学部教育 2 大学院教育 3 学生への支援 第3 学術研究、地域貢献活動、国際交流 の推進等による、大学ブランドの確立 1 地域課題の解決や健康創造都市戦略等を担う、学術研究の推進 2 市民との連携・交流による、地域の保健医療への貢献の推進 3 グローバルな視点を培う、国際交流の推進 第4 業務運営及び財務内容の改善 1 効率的で機動的な組織運営体制を構築し、地域の発展に貢献する大学へ 2 優れた教職員を確保・育成し、特性を生かす、人事・組織制度の構築 3 自立した看護基礎教育に必要な施設、設備など、教育環境の整備・充実 4 自己点検・評価による質の改善、情報公開による透明性の確保 5 心身の健康と安全の確保、危機管理体制の整備、ハラスメント行為の防止 6 多様な自己収入の確保・充実と経費の適正化	前文 第1 中期目標の期間 第2 <u>豊かな教養と専門性を備えた実践力のある看護人材の育成と地域への着実な供給</u> 1 入学者選抜及び学部教育 2 大学院教育の <u>充実</u> 3 学生への支援 4 <u>優秀な学生の確保と市内への看護人材の供給</u> 第3 大学ブランドの <u>強化・向上</u> 1 地域課題の解決や <u>市の政策課題への貢献</u> を担う、学術研究の推進 2 市民との連携・交流による、地域の保健医療への貢献の推進 3 グローバルな視点を培う、国際交流の推進 第4 業務運営及び財務内容の改善 1 効率的で機動的な組織運営体制の <u>構築による地域の発展への貢献</u> 2 自立した看護 <u>職者の育成</u> に必要な <u>基礎教育</u> の教育環境の整備・充実 3 自己点検・評価による質の改善、情報公開による透明性の確保 4 心身の健康と安全の確保、危機管理体制の整備、ハラスメント行為の防止 5 多様な自己収入の確保・充実と経費の適正化
前文	前文
神戸市看護大学は、「いのちの大切さ」を改めて学んだ阪神・淡路大震災の翌	神戸市看護大学は、阪神・淡路大震災の翌年の1996年4月に神戸市の保

中期目標 第1期・第2期（案）比較

年の1996年4月に神戸市の保健・医療・福祉に貢献できる看護専門職者の育成を使命として開学し、以後23年間にわたり、高い倫理観を備え、実践力のある看護職者や教育研究者、看護管理者を輩出してきた。

現在、少子高齢社会の急速な進展、医療と介護の連携による地域包括ケアの推進、在宅医療需要の増加、医療技術の高度化、さらに18歳人口の減少による大学間競争の激化など、保健・医療・福祉を取り巻く状況や大学をめぐる環境は、大きく、しかも急速に変化している。2025年には団塊の世代が全て後期高齢者となり、そして2042年には高齢者人口がピークを迎え、認知症等の高齢者の増加が予測される中で、変革の時となるこれからの時代、看護大学には多様化・複雑化する社会のニーズに対応しうる看護人材の育成と、それを実現するための質の高い教育研究の実施が求められている。

また、阪神・淡路大震災からの創造的復興事業として、構想開始から20年を迎える神戸医療産業都市の取組みにおいても、市民の健康・福祉の向上を目指し、役割を果たしていく必要がある。

公立大学法人神戸市看護大学は、保健・医療・福祉の教育研究拠点として、豊かな教養と看護の専門性を備えた実践力のある看護人材の育成のみならず、質の高い教育研究活動に取り組み、人的資源や教育研究成果を絶えず市民に還元するとともに、産学官の連携による地域貢献活動を展開することを通じて、学術の発展と市民の健康と生活の質の向上に寄与する。

以上を新たな使命として実践し、果たしていくため、ここに公立大学法人神戸市看護大学（以下「法人」という。）の中期目標を策定する。

第1 中期目標の期間

2019年4月1日から2025年3月31日

中期目標の期間内であっても、社会状況、時代の要請を踏まえた中期目標の検証を行う

健・医療に貢献できる看護専門職者の育成を使命として開学し、2019年4月の公立大学法人への移行を経て、看護人材育成のための取り組みや地域貢献活動を着実に実施してきた。

現在、少子高齢社会の急速な進展、医療の高度・専門化や医療機関における働き方改革への対応、地域包括ケアの推進、在宅医療需要の増加、さらに18歳人口の減少による大学間競争の激化など、各分野におけるニーズや大学を取り巻く環境はますます複雑・多様化している。

このような環境変化の中、神戸市看護大学には、大学院教育の充実など、豊かな教養と専門性を備えた実践力のある看護人材の育成とともに、神戸市や市内医療機関等との連携などにより、現場のニーズに対応した看護人材を着実に供給することがますます求められている。

また、新型コロナウイルス感染症の経験も踏まえた災害や感染症にも対応できる人材の育成と、人的資源や教育研究成果の絶えまない市民への還元、及び地域貢献活動の精力的な展開も期待される。

加えて、教職員が働きやすい環境を整備するため、引き続き、業務改革等を推進する必要がある。

こうした取り組みを進めることで、保健・医療の教育研究拠点として、学術の発展と市民の健康・生活の質の向上に寄与する。

以上を神戸市看護大学の使命として実践し、果たしていくため、公立大学法人神戸市看護大学の第2期中期目標を策定する。

第1 中期目標の期間

2025年4月1日から2031年3月31日

中期目標の期間内であっても、社会状況、時代の要請を踏まえた中期目標の検証を行う

中期目標 第1期・第2期（案）比較

第2 社会的ニーズに対応した幅広く高い能力を持つ、看護人材の育成	第2 <u>豊かな教養と専門性を備えた実践力のある看護人材の育成と地域への着実な供給</u>
1 入学者選抜及び学部教育	1 入学者選抜及び学部教育
<p>多様化・複雑化する社会のニーズに対応しうる学生の確保に努めるとともに、専門教育と教養教育の連携により、広い視野と豊かな感性、科学的な思考を身につけ、人間の存在や経験の意味を洞察する能力、生命の尊厳と人権を尊重する倫理的態度、異文化や様々な価値観を理解・尊重し、能動的に他者との関係を築くことができる能力及び主体的に学ぶ力を育成する。</p> <p>また、神戸市民病院群等との連携の下、地域包括ケアシステム及び急性期医療から在宅医療、高度・専門医療等に対応した幅広い教育を行うことにより、個別性のある看護を実践するとともに、患者・利用者の意思を尊重して、保健・医療・福祉従事者等と連携・協働できる能力を育成する。</p>	<p><u>多様化・複雑化する社会の要請に対応しうる学生を確保するため、看護分野を目指す志願者の状況や学生のニーズを把握し、多様な学生確保の在り方について絶え間ない検証と改善を実施するとともに、人間の存在や経験の意味を洞察する能力、生命の尊厳と人権を尊重する倫理的態度、異文化や様々な価値観を理解・尊重し、<u>学生が能動的に他者との関係を築くことができる能力及び主体的に学ぶ力を育成する。</u></u></p> <p><u>さらに、地域に根差した大学として、学生に対する地域での教育や研究を推進するため、地域との協働による教育をより一層推進する。</u></p> <p>また、<u>市内病院等との連携により</u>、地域包括ケアシステム及び急性期医療から在宅医療、高度・専門医療等に対応した幅広い教育を行うとともに、<u>多職種連携に対する理解とその実践能力を育成する。また、新型コロナウイルス感染症の経験も踏まえ、災害や感染症にも対応できる人材を育成する。</u></p> <p><u>あわせて、他大学との教育連携を推進し、学生の幅広い学びの機会を提供する。</u></p> <p>【数値目標】 国家試験合格率 100%</p>
2 大学院教育	2 大学院教育の充実
<p>博士前期課程では、高度な専門知識や技術、倫理観等の修得を可能とするカリキュラムを編成し、医療現場や地域社会における諸課題に対して実践的に解決する能力を育成する。</p> <p>博士後期課程では、看護学の理論的基盤構築や看護実践の質向上を目指した研究を自立して行うことができる能力を育成する。</p> <p>また、国際的視野に立って地域社会や看護学の発展に貢献しうる研究を推進し、専門性の高い看護実践を行うことができる能力を有する専門看護師な</p>	<p><u>大学院の魅力向上に向け、教育内容の充実を図り、高度な専門知識や技術、倫理観等の修得を可能とするカリキュラムを編成することで、<u>医療現場や地域社会における諸課題に対して実践的に解決する能力を養い、地域医療のリーダーとなる看護人材を育成する。</u></u></p>

中期目標 第1期・第2期（案）比較

<p>どの看護専門職者、看護管理者、教育者、研究者を育成する。</p>	
3 学生への支援	3 学生への支援
<p>学生が学修に専念し充実した学生生活を送ることができるよう環境を整え、学修面、生活面、健康面、経済面等の支援を充実・強化する。</p> <p>また、学生が主体的に進路を決定し、キャリア形成を行えるよう就職支援の体制の充実を図るとともに、市内就職を促進していく。</p>	<p>学生が学修に専念し充実した学生生活を送ることができるよう環境を整え、学修面、生活面、健康面、経済面等の支援を行う。</p>
	<p><u>とりわけ学修面については、ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）など学内の基準を達成するために、学生に応じた学修支援を実施する。</u></p>
<p>さらに、卒業生及び修了生に対しても、生涯にわたりキャリア支援を行う。</p>	<p><u>卒業後学生に対しても、卒業後の不安解消のための支援及びキャリア支援の充実を図る。</u></p> <p>【数値目標】</p> <p>学生アンケートによる大学生生活全般についての満足度</p> <p style="padding-left: 20px;"><u>学部生 90%以上（かなり満足及びほぼ満足）</u></p> <p style="padding-left: 20px;"><u>院生 80%以上（かなり満足及びほぼ満足）</u></p>
	4 優秀な学生の確保と市内への看護人材の供給
新規項目	<p><u>18歳人口が減少する中、市内に看護人材を着実に供給するため、市外も含めてさらなる優秀な学生の確保に取り組むとともに、市内医療機関等への就職・定着のための取り組みを強化する。</u></p> <p>【数値目標】</p> <p>就職希望者の市内就職率 65%以上</p>
第3 学術研究、地域貢献活動、国際交流の推進等による、大学ブランドの確立	第3 大学ブランドの強化・向上
<p>学術研究の成果、地域の保健医療への貢献、国際交流の推進、神戸市民病院群等での実習教育などを大学ブランドとして確立するとともに、神戸市看護大学の強みとして効果的に情報発信していく。</p>	<p>学術研究の成果、地域の保健医療への貢献、国際交流の推進、神戸市民病院群等との連携による教育・キャリア支援など、<u>大学ブランドの強化・向上を図るとともに、引き続き神戸市看護大学の強みを効果的に情報発信していく。</u></p>

中期目標 第1期・第2期（案）比較

1 地域課題の解決や健康創造都市戦略等を担う、学術研究の推進	1 地域課題の解決や市の政策課題への貢献を担う、学術研究の推進
<p>看護学をはじめとする各学問分野の発展に寄与する研究に取り組むとともに、地域社会における保健・医療・福祉分野のさまざまな課題解決に資する研究に取り組み、国内外に向けて研究成果を発信し、各分野の学術的発展に貢献する。</p> <p>また、神戸市の高等教育機関として、産官学連携の強化を図り、神戸市の抱える様々な政策課題に対して、調査・研究や情報発信、政策提言等により、神戸医療産業都市の成果を踏まえながら、健康寿命の延伸、健康格差の縮小を目指す健康創造都市戦略の一翼を担い、市や神戸市民病院群と連携して保健・医療・福祉施策の充実に寄与する。</p> <p>このため、社会の急激な変化に対応できるよう、更なる外部資金獲得及び将来の大学院の重点化を見据えた人材の確保を目指して、研究環境及び研究組織を充実させるための制度やその支援体制構築を推進する。</p>	<p>看護学をはじめとする各学問分野の発展に寄与する研究に取り組むとともに、<u>神戸市の高等教育機関として、地域社会における保健・医療分野のさまざまな課題解決に資する研究に取り組み、国内外に向けて研究成果を発信し、各分野の学術的発展並びに市民の健康寿命の延伸等市の政策課題の解決に貢献する。</u></p> <p>このため、社会の急激な変化に対応できるよう、更なる外部資金獲得及び人材の確保を目指して、研究環境及び研究組織を充実させるための制度やその支援体制構築を推進する。</p>
2 市民との連携・交流による、地域の保健医療への貢献の推進	2 市民との連携・交流による、地域の保健医療への貢献の推進
<p>保健・医療・福祉に関する地域課題の解決に向けて、神戸医療産業都市進出企業をはじめとする企業、市民、市内の大学、神戸市民病院群をはじめとする医療機関、福祉施設等と連携した教育研究活動、地域貢献活動を推進するとともに、その成果を積極的に市民へ還元する。</p> <p>市民に信頼され、貢献できる大学として、COC事業（地（知）の拠点整備事業）等の成果を生かしながら、公開講座等の実施、大学施設の開放等を行うことにより、市民の生涯学習に寄与するとともに、市民との交流を促進する。</p> <p>また、地域に看護人材を供給するために、看護職者の就業継続支援や復職支援、新たな学びのニーズに対応したリカレント教育を充実させ、看護職者の生涯学習の拠点としての役割を果たす。</p>	<p>地域課題の解決に向け、<u>地域や関係機関等と連携した教育研究活動、地域貢献活動を推進し、その成果を積極的に市民へ還元するとともに、市民に信頼され、貢献できる大学として、公開講座等の実施、大学施設の開放等を行うことにより、市民の生涯学習に寄与し、市民との交流を促進する。</u></p> <p>また、地域に看護人材を供給するため、<u>看護職者の生涯学習の拠点として、新たな学びのニーズに対応したリカレント教育など看護人材の就業継続支援や復職支援を引き続き実施する。</u></p>
3 グローバルな視点を培う、国際交流の推進	3 グローバルな視点を培う、国際交流の推進
<p>神戸市外国語大学をはじめとする市内大学と連携し、国際都市神戸にある</p>	<p>神戸市外国語大学をはじめとする市内大学と連携し、国際都市神戸にある</p>

中期目標 第1期・第2期（案）比較

<p>大学として、外国人教員の確保や、海外からの留学生の受入れを推進するとともに、国際化が進む保健・医療・福祉分野において、医療介護分野等で働く外国人のキャリア開発を支援する。</p> <p>また、多様な価値観や文化的背景、生活習慣等に配慮できる国際的な感覚を有した人材が求められていることから、異文化への理解やグローバルな視点と感覚を培うため、海外研修による異文化体験や地域で暮らす在日外国人との交流、外国の大学との国際交流を推進する。</p>	<p>大学として、国際化が進む保健・医療分野で働く外国人のキャリア開発等、<u>当該分野で活躍できる人材の育成に貢献する。</u></p> <p>また、多様な価値観や文化的背景、生活習慣等に配慮できる国際的な感覚を有した人材が求められていることから、異文化への理解やグローバルな視点と感覚を培うため、海外研修による異文化体験や地域で暮らす在住外国人との交流、外国の大学との国際交流を推進する。</p>
<p>第4 業務運営及び財務内容の改善</p>	<p>第4 業務運営及び財務内容の改善</p>
<p>1 効率的で機動的な組織運営体制を構築し、地域の発展に貢献する大学へ</p>	<p>1 効率的で機動的な組織運営体制の構築による地域の発展への貢献</p>
<p>理事長及び学長のリーダーシップの下に、時代の変化や新たな社会的ニーズに対応できるよう、効率的で機動的な組織運営体制を構築するとともに、学外から登用する役員や委員の意見を積極的に取り入れ、開かれた大学運営を推進する。</p>	<p>理事長及び学長のリーダーシップの下、時代の変化や新たな社会的ニーズに対応できるよう、効率的で機動的な組織運営体制を構築するとともに、学外から登用する役員や委員の意見や、<u>学生の視点も積極的に取り入れ、開かれた大学運営を推進する。</u></p>
<p>また、少子高齢社会の進展に伴う疾病構造の変化に対応し、地域における保健・医療・福祉の発展に貢献できる大学として役割を果たしていけるよう、教育研究組織の拡充等の不断の見直しを行う。</p>	<p>また、<u>学生や高度専門化する現場のニーズに対応し、外部教員の活用を図るなど、多様な人材の確保と教職員の能力向上に取り組む。</u></p> <p><u>さらに、教職員が意欲的に働くことのできる環境を整備するため、働き方改革を推進し、DXの活用など業務プロセスの改善を進める。</u></p> <p><u>あわせて職員の専門性、組織の継続性を高めるため、固有職員の配置・育成を進め、組織の強靱化を図る。</u></p>
<p>2 優れた教職員を確保・育成し、特性を生かす、人事・組織制度の構築</p>	
<p>教育・研究等の質の向上及び法人の円滑な運営を図るため、多様な人材の確保と教職員の能力向上に取り組むとともに、神戸研究学園都市の立地を生かしながら、近隣大学との単位互換制度など教育連携を進めるとともに、専門性に応じて客員教授など外部人材の活用を図り、効率的かつ合理的な大学運営を行う。</p> <p>また、教職員の職務の特性に見合った柔軟で弾力的な人事制度を構築する</p>	

中期目標 第1期・第2期（案）比較

<p>とともに、教職員の意欲向上や教育研究の質向上を図るため、適切な人事評価システムを構築する。</p>	
<p>3 自立した看護基礎教育に必要な施設、設備など、教育環境の整備・充実</p>	<p>2 自立した看護職者の育成に必要な基礎教育の教育環境の整備・充実</p>
<p>良好な教育研究環境を確保するため、中長期的な展望に立ち、計画的に施設・設備の整備を行う。</p> <p>また、学生のアクティブラーニングを支援し効果的な教育を実施するため、シミュレーション教育やICTの活用により、地域包括ケアシステム、急性期医療から在宅医療、高度・専門医療等を支える自立した看護職者の基礎教育に必要な教育環境を整える。</p>	<p>良好な教育研究環境を確保するため、中長期的な展望に立ち、計画的に施設・設備の整備を行う。</p> <p>また、<u>学生に対する効果的な教育を実施するため、ICTなど、最新の技術の活用や、専門性の高い講義等のオンラインによる聴講などを推進するとともに、地域包括ケアシステム、急性期医療から在宅医療、高度・専門医療等を支える自立した看護職者の育成に必要な基礎教育の教育環境を整え、多様で最先端の学修と学術研究を行う場を提供する。</u></p>
<p>4 自己点検・評価による質の改善、情報公開による透明性の確保</p>	<p>3 自己点検・評価による質の改善、情報公開による透明性の確保</p>
<p>(1)自己点検・評価及び外部評価</p>	<p>(1)自己点検・評価及び外部評価</p>
<p>教育・研究等の質を向上し、大学の教育理念・教育目標を達成するため、教育研究活動及び業務運営等に関する、毎年の自己点検・評価及び評価委員会や認証評価機関による外部評価（大学機関別認証評価・分野別評価）の結果を公表し、教育研究活動及び業務運営の改善に活用する。</p>	<p>教育・研究等の質を向上し、大学の教育理念・教育目標を達成するため、<u>教育研究活動及び業務運営に関し、内部統制規程に基づくモニタリング等を行い、自己点検を実施するとともに、評価委員会や認証評価機関による外部評価（大学機関別認証評価・分野別評価）の結果を踏まえ、教育研究活動及び業務運営の絶え間ない改善を行う。</u></p>
<p>(2)情報公開及び情報管理</p>	<p>(2)情報公開及び情報管理</p>
<p>法人運営の透明性を確保し、説明責任を果たすため、教育研究活動及び大学の運営状況等について積極的に情報を公開する。</p> <p>また、法人や大学が取り扱う情報資産及び個人情報の保護・管理を適正に行う。</p>	<p>法人運営の透明性を確保し、説明責任を果たすため、教育研究活動及び大学の運営状況等について積極的に情報を公開する。</p> <p>また、法人や大学が取り扱う情報資産及び個人情報の保護・管理を適正に行う。</p> <p><u>さらに、大学の特色・強みを明確化するため、学生の学修成果や教員の研究成果、受験生や卒業生の動向などのデータについて調査・分析を行うIR（インスティテューショナルリサーチ）を推進し、効率的な大学運営や効果的な情報の発信に努める。</u></p>
<p>5 心身の健康と安全の確保、危機管理体制の整備、ハラスメント行為の防</p>	<p>4 心身の健康と安全の確保、危機管理体制の整備、ハラスメント行為の防</p>

中期目標 第1期・第2期（案）比較

止	止
<p>学生及び教職員の心身の健康を確保するとともに、事故、犯罪、災害等の発生を未然に防止することに努め、安全対策に万全を期す。また、事故等が発生した場合に迅速に対応できるよう危機管理体制を整備する。</p> <p>さらに、教職員及び学生の人権意識の向上を図り、各種ハラスメント行為の発生の未然防止を図る。</p>	<p>学生及び教職員の心身の健康を確保するとともに、事故、犯罪、災害等の発生を未然に防止することに努め、安全対策に万全を期す。</p> <p>また、事故等が発生した場合に迅速に対応できる<u>体制を確保するとともに、特に、サイバーセキュリティの脆弱性に対するさらなる危機管理体制を整備する。</u></p> <p>さらに、<u>LGBTQ等新たな人権保障に基づいた教職員及び学生の人権意識の向上を図り、各種ハラスメント行為の発生の未然防止を徹底する。</u></p>
6 多様な自己収入の確保・充実と経費の適正化	5 多様な自己収入の確保・充実と経費の適正化
<p>科学研究費補助金等の競争的資金や共同研究・受託研究資金及び寄附金等の外部資金の獲得に積極的に取り組む。</p> <p>また、大学経営の観点や社会情勢も勘案しつつ、市内の受験生を優遇する方策や、学生の市内就職を促進する方策について検討するとともに、公開講座受講料等の受益者負担については、適正な収入を確保するほか、大学施設の外部貸付けや地域への開放等により多様な収入の確保に取り組む。</p> <p>さらに、教育・研究等の水準の維持・向上に配慮しつつ、教職員のコスト意識を高めるとともに、ICT技術や外部委託の活用などにより業務改善を継続的に行い、経費の適正化に努める。</p>	<p>科学研究費補助金等の競争的資金や共同研究・受託研究資金及び寄附金等の外部資金の獲得に積極的に取り組む。</p> <p><u>また、公開講座受講料等や大学施設の外部貸付け、地域への開放等による多様な収入の確保に取り組む。</u></p>

公立大学法人神戸市看護大学の概要

1 目的

保健医療に関する質の高い教育研究活動に取り組み、その成果を絶えず地域社会に還元すること及び豊かな教養と看護の専門性を備えた実践力のある看護人材を育成することを通じて、学術の発展と市民の保健、医療、福祉の向上に寄与することを目的とする。

2 業務

- (1) 大学を設置し、及び運営すること。
- (2) 学生に対し、修学、進路選択及び心身の健康等に関する相談その他の援助を行うこと。
- (3) 法人以外の者から委託を受け、又はこれと共同して行う研究の実施その他の法人以外の者との連携による教育研究活動を行うこと。
- (4) 公開講座の開設その他の学生以外の者に対する学習の機会を提供すること。
- (5) 大学における研究の成果を普及し、及びその活用を促進すること。
- (6) 前各号の業務に附帯する業務を行うこと。

3 沿革

昭和 34(1959)年 9 月	神戸市立高等看護学院開設
昭和 56(1981)年 4 月	神戸市立看護短期大学開学
平成 8 (1996)年 4 月	神戸市看護大学開学 神戸市立看護短期大学を神戸市看護大学短期大学部と改称
平成 12(2000)年 4 月	神戸市看護大学大学院看護学研究科博士前期課程設置
平成 17(2005)年 4 月	神戸市看護大学助産学専攻科設置
平成 18(2006)年 4 月	神戸市看護大学大学院博士後期課程設置
平成 19(2007)年 12 月	神戸市看護大学短期大学部閉学
平成 28(2016)年 3 月	神戸市看護大学助産学専攻科廃止
平成 28(2016)年 4 月	大学院博士前期課程に助産学実践コース設置
平成 29(2017)年 4 月	大学院看護学研究科博士前期課程にマネジメント実践コース設置
平成 31(2019)年 4 月	公立大学法人神戸市看護大学発足
令和 3 (2021)年 4 月	神戸市看護大学いちかんダイバーシティ看護開発センター発足

4 学部等の構成及び学生定員・在学生数

(在学生数は、2024年5月1日現在)

学科等	看護学部 看護学科	看護学研究科		合計
		博士前期課程 (2年)	博士後期課程 (3年)	
総定員	400人	56人	9人	465人
入学定員	100人	28人	3人	141人
在学生数	398人	42人	17人	457人

中期目標 参考資料

1 入学者選抜、学部教育の状況（7頁）

（1）入学者選抜

①過去5年間の学部志願者の推移

入学年度		2020	2021	2022	2023	2024
一般選抜 前期日程	募集人数	55人	55人	55人	55人	55人
	志願者数	147人	106人	118人	166人	151人
	志願倍率	2.7倍	1.9倍	2.1倍	3.0倍	2.7倍
	受験倍率	2.5倍	1.9倍	2.0倍	2.7倍	2.4倍
一般選抜 後期日程	募集人数	15人	15人	15人	15人	10人
	志願者数	123人	167人	146人	159人	158人
	志願倍率	8.2倍	11.1倍	9.7倍	10.6倍	15.8倍
全体	募集人数	95人	95人	95人	100人	100人
	志願者数	390人	377人	386人	464人	439人
	志願倍率	4.1倍	4.0倍	4.1倍	4.6倍	4.4倍
	(100人換算)	(3.9倍)	(3.8倍)	(3.9倍)		

（参考①）市内の看護系学部一般入試（前期）受験倍率の比較

入学年度	2020	2021	2022	2023	2024
神戸市看護大学	2.5倍	1.9倍	2.0倍	2.7倍	2.4倍
兵庫県立大学	1.7倍	2.0倍	2.0倍	2.2倍	1.7倍
神戸大学	1.9倍	2.0倍	2.1倍	1.7倍	1.9倍
甲南女子大学	2.7倍	2.8倍	3.5倍	3.2倍	3.5倍
神戸女子大学	3.5倍	5.2倍	5.9倍	4.9倍	5.9倍
神戸常盤大学	3.0倍	2.7倍	2.4倍	2.3倍	3.1倍
兵庫医療大学	6.5倍	11.3倍	—	—	—
兵庫医科大学	—	—	7.4倍	5.6倍	3.7倍

（参考②）兵庫県立大学の授業料無償化

- 兵庫県は、少子化・人口減対策として高等教育の負担軽減を図るため、令和6（2024）年度から県内在住者を対象に、兵庫県立大学の入学金と授業料を段階的に無償化し、学部については令和8（2026）年度入学生から完全に無償化する。また、県外学生の入学金についても423,000円から282,000円に引き下げる方針（令和8（2026）年度予定）。

（2）学部教育

①災害・感染症看護

- 「災害看護論」において、災害が人々の健康と生活に及ぼす影響、災害の準備期から発災直後及び中・長期にわたり必要となる看護活動について学び、災害看護活動に参加できる基礎的能力を習得するとともに、トリアージ訓練や避難所机上訓練を実施。
- 感染症については、最前線で患者の受け入れに当たっていた医療従事者の経験や実績を学ぶ授業内容を今後取り入れる予定。



災害看護技術演習の様子

②医療機関への実習状況

- ・医療機関への実習について、2023年度は10医療機関（総日数783日）を対象に、小児、精神、公衆衛生、総合、クリティカルケア（重症患者）、周手術期（手術前後を含めた一連の期間）、慢性病、老年の8分野での看護学実習を実施。
- ・実習先：中央市民病院、西市民病院、西神戸医療センター、神戸リハビリテーション病院、神戸大学医学部附属病院、神戸医療センター、兵庫県立こども病院、姫路赤十字病院、関西青少年サナトリウム、垂水病院

③他大学との連携

- ・「大学コンソーシアムひょうご神戸単位互換制度」
看護大学の学生が市内各大学で受講でき、他大学で修得した科目の単位を、看護大学の卒業単位として認定。また、「公衆衛生学」「疫学」「医療・看護制度論」「看護管理学」について、他大学の学生の受け入れを実施。
- ・神戸学院大学との連携
神戸学院大学と平成30（2018）年10月に大学間連携協定を締結。地域の保健医療福祉領域におけるニーズを把握し、多職種連携協働による患者・家族・コミュニティ中心のケアに寄与できるようにするため、病院・行政・訪問看護等における実務経験のある教員により、実践的な見地から指導。医師や患者等も招きながら、学部横断の学生によるグループ活動により症例について話し合い、各職種の業務や役割、多職種連携の方法について理解し、実践していく基盤を養う。



多職種連携教育の様子

2 学生への支援（8頁）

- ・単科大学の魅力として学生数が少なく教員との距離が近いといった特色を生かしつつ、看護学分野だけでなく教養分野も含めたクラス担任制をはじめ、教員以外にも就職支援ではキャリア支援室職員、健康面では保健室職員の配置など、全学的に体制を整え、学生へのきめ細かい支援を実施。

（1）学習支援

- ・クラス担任制を採用し、学生からの質問等に応じる時間としてオフィスアワーを設けるとともに、再履修生及びGPA（※）が平均以下の学生に対し、担任が個別指導を実施。
※履修登録した各科目の5段階評価の成績を、4から0までの点数（GP：Grade Point）に置き換えて単位数を掛け、その総和を履修登録単位数の合計で割った平均点（1単位あたりのGPの平均値）。これを用いることにより、学期毎の成績の変化や入学時からの累積の成績も把握できるようになり、より細やかな成績の把握が可能となる。2.4～2.8がGPAの平均値。

（参考）GPA2.4未満の学生数の推移

2021年度				2022年度				2023年度			
4年生	3年生	2年生	1年生	4年生	3年生	2年生	1年生	4年生	3年生	2年生	1年生
15人	8人	6人	8人	7人	9人	8人	21人	5人	8人	14人	24人

（2）経済的に困窮している学生に対する支援

- ・授業料・入学金の減免
国の高等教育修学支援新制度による授業料及び入学金の減免（世帯収入380万円以下を対象に、所得に応じて全額・2/3・1/3を減免）に加え、神戸市独自減免として、世帯収入500万円以下に拡大するとともに国制度対象外の大学院生等も対象に追加。
- ・その他、学生の申し出による授業料の納付猶予・分納への対応や、市営住宅を低家賃で斡旋。

(3) キャリア支援

①在學生

- ・キャリア支援室を設置し、市民病院の看護管理経験のある専任職員が進路への適性についてキャリア発達との観点から学生を支援し、学生の進路全般を組織的にサポート。
- ・具体的な取り組みとして、専任職員による市民病院群への就職促進の強化や、大学職員による市内の病院訪問など、市内の公的病院や民間病院とのネットワークの強化を図っている。さらに、実習受入先の拡大や、市民病院に加えて市内の民間病院や神戸市を含めた学生向け就職説明会を開催し、市内就職率の向上に努めている。



- ・訪問先病院（2023年度）：中央市民病院、西市民病院、西神戸医療センター、神戸リハビリテーション病院、神戸医療センター、兵庫県立こども病院、神戸赤十字病院、JCHO 神戸中央病院、甲南医療センター、神鋼記念病院、三菱神戸病院、東神戸病院、神戸掖済会病院、関西青少年サナトリウム等 20 病院
- ・学生向け就職説明会（2023年度）：参加学生数 93 名、参加施設 10 施設

②卒業生

- ・卒業前に学生から卒業後の連絡先を聞き取り、大学からの連絡が卒業生に届くようにするとともに、病院訪問により卒業生の就職先からも情報を入手し、卒業生宛てにキャリア支援室の活用を促す手紙を送付するなど、学生が卒業後も、学生の動向の把握とつながりの維持強化に努めている。
- ・卒業生からの相談窓口として、卒業生のための LINE 公式アカウントを開設するとともに、就職後の職場や生活について、面談（オンライン含む）、電話、LINE により個別相談を実施。

（個別相談の状況）

2023 年度 17 件/10 人の転職相談やキャリア選択等の個別相談に対応。

③学生のニーズの把握

○学生の健康と生活に関する調査

- ・学部生と大学院生を対象として2023年度に実施。

学生生活全般について

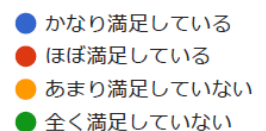
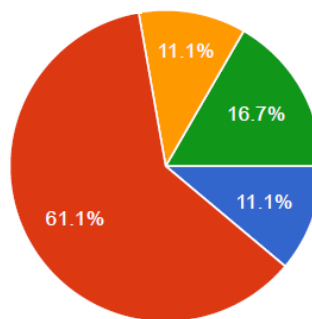
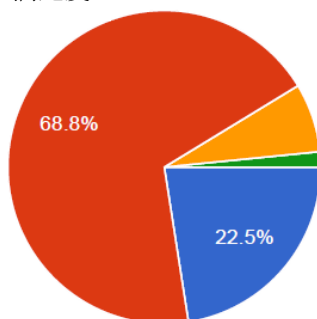
かなり満足している・ほぼ満足している 学部生 91.3%、大学院生 72.2%

（主な項目）

生活習慣や健康状態、学内外でのクラブや友人関係などの学生生活、
経済状況や進路、進学に関するもの等

学部生の満足度

大学院生の満足度



○1年生を対象としたアンケート調査

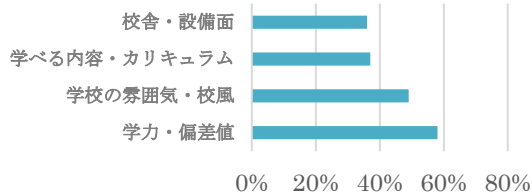
- ・大学志願者のニーズを把握するため、入学直後にアンケート調査を実施。

（主な項目）

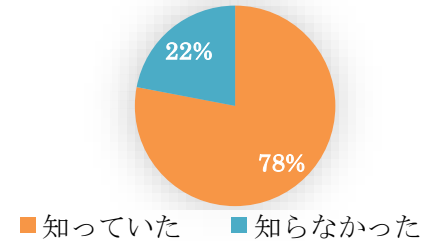
- ・受験しよう決めたポイント：

- 学力・偏差値 58%、学校の雰囲気・校風 49%、学べる内容・カリキュラム 37%、校舎・設備面36%
- ・入学金引き下げと市内就職奨励金制度を知っていたか：78%
- ・大学の情報収集媒体：
大学ホームページ 56%、大学受験情報サイト 35%、高校・専門学校の先生 32%

受験をしようと決めたポイント



入学金引下げと市内就職奨励金について

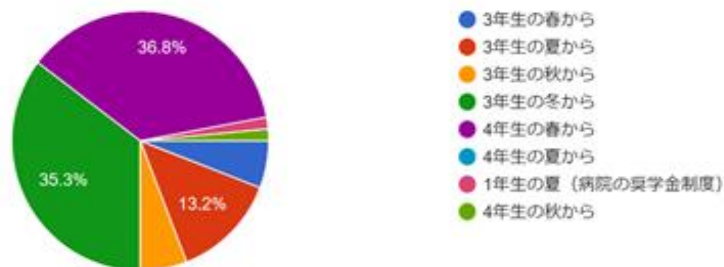


○4年生を対象としたアンケート調査

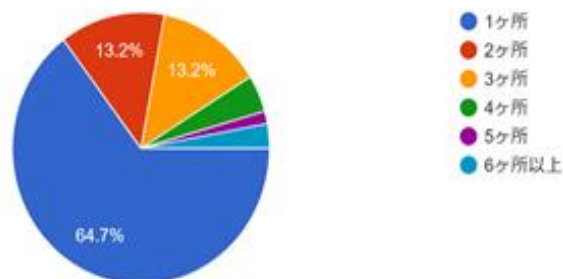
- ・学生の進路に関する希望等を把握するため、進路に関するアンケートを実施。
(主な項目)

- ・就職活動を始めた時期：4年生の春 36.8%
- ・就職試験を受けた数：1か所 64.7%
- ・合同説明会に参加：91.3%
- ・病院見学会に参加：59.4%
- ・内定した就職先を選択した理由：
実家に近い・地元 43.5%、実習での経験 40.6%、
病院見学会・インターンシップ 39.1%、福利厚生 39.1%

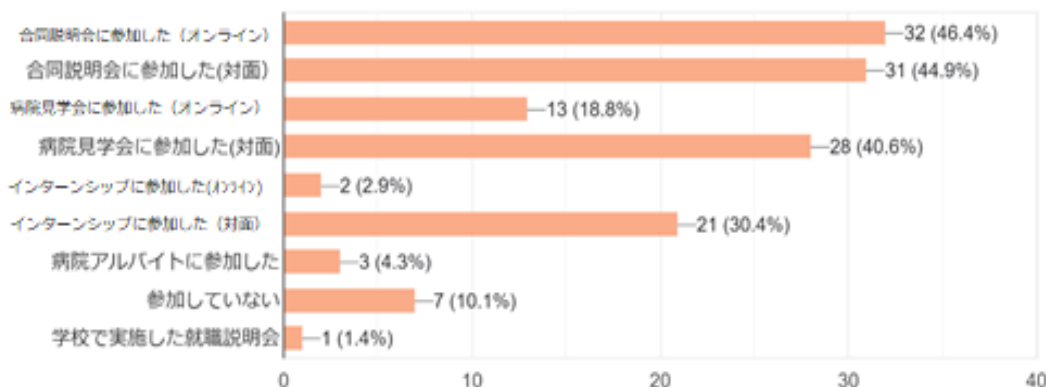
就職活動を始めた時期 (68人回答)



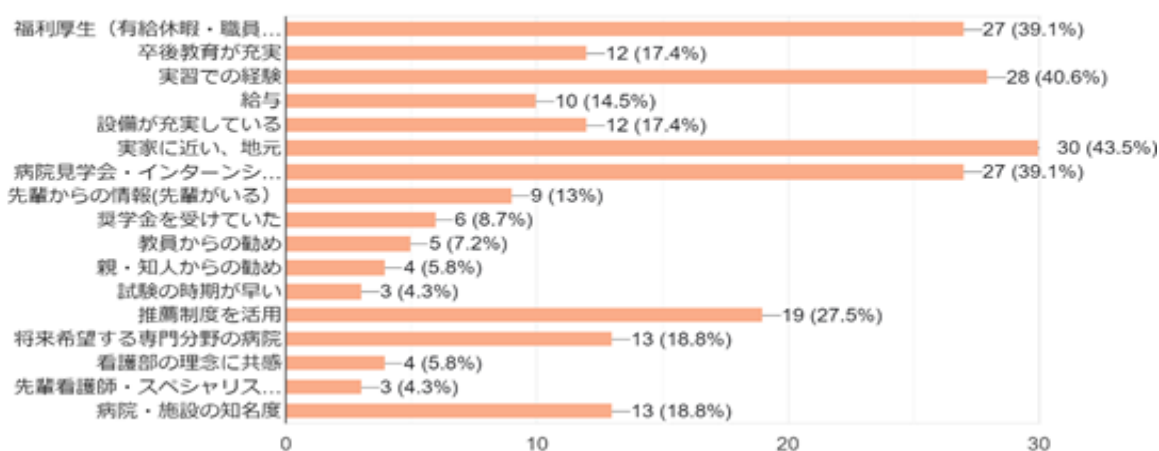
就職試験を受けた数 (68人回答)



合同就職説明会、インターンシップ参加数（69人回答）



内定した就職先を決めた理由（69人回答）



(4) 環境整備

受験生に選ばれる魅力的な学修環境の整備として、施設に関する学生のニーズ調査で要望が多かった、以下の施設改修を実施。

- ①パウダーコーナー新設などトイレの美装化・洋式化
- ②Wi-Fi環境を学内全域に拡充
 - ・Wi-Fiアクセスポイントを15カ所新設。
- ③グループワークに活用できるよう学生食堂のウッドデッキを再整備
- ④教育棟南館の空調更新（更衣室空調含む）

3 優秀な学生の確保と市内への看護人材の供給（8頁）

(1) 学生の確保

①入学金の引き下げ

・他都市の市立大学看護系学部等の入学金の状況を踏まえ、2023（令和5）年度以降の入学者の入学金を一律141千円引き下げた。

対象	引き下げ前	引き下げ後
神戸市民及びその子弟	282,000円	141,000円
神戸市外在住者	423,000円	282,000円

②学校推薦型選抜の募集人員の拡大

2023（令和5）年度の25人から、2024（令和6）年度は30人に拡大。

③高校訪問

2023（令和5）年度 28校訪問

④LINE公式アカウントの開設

2021（令和3）年5月より、受験生向けLINE公式アカウントを開設（登録者数：5月1日現在1,623人）

（2）市内への看護人材の供給

①市内就職奨励金

- ・市内医療機関等への定着の促進を図り、神戸市の看護人材の育成に寄与することを目的に、2023（令和5）年に「神戸市看護大学市内就職奨励金支給制度」を創設。
- ・2023（令和5）年3月以降の学部卒業生を対象に、市内就職のインセンティブとして、勤続年数に応じて奨励金（総額14万1千円）を支給。
- ・市内定着の観点も踏まえ勤続年数（1～3年）に応じ、以下のとおり支給。
1年経過後：5万円、2年経過後：5万円、3年経過後：4万1千円
- ・5月30日現在で2022年度卒業の37名が登録し、うち19名が申請。

②就職支援

- ・卒業生の市内就職率向上に向けて、学生の就職支援にあたるキャリア支援室に市民病院の看護管理経験のある専任職員を配置し、市内病院への就職促進を強化。

（参考）国家試験合格率

	2019	2020	2021	2022	2023
看護師	98.9%	98.9%	98.9%	98.9%	98.9%
保健師	100%	100%	100%	95%	100%

（参考）市内就職率の推移（市内就職者数/総就職者数）

2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
40.6%	49.5%	44.2%	45.7%	64.7%	51.5%	65.1%

※他都市の状況：札幌市立大学 75%、横浜市立大学 86%、名古屋市立大学 70%

4 市民との連携・交流による地域の保健医療への貢献の推進（9頁）

（1）地域貢献の取り組み

①地元創成看護学実習

- ・地域に根ざした看護職の育成を目指し、須磨区と西区の20地区の自治会等、地域住民の協力を得て、地域に出向いて実習を行う「地元創成看護学実習」を実施。
- ・学生が地域住民の自宅を訪問し、生活スタイルや生活上の楽しみ、生きがい、健康に暮らすための工夫などについて話を聞かせていただき、地域住民が健康を維持するためには何が必要かを学修。

②コラボ教育

- ・地域住民とのコラボ教育について、地域住民が教育ボランティアや地元創生看護学実習ボランティアとして講義、演習や実習などに参加。

③「まちの保健室」「コラボカフェ」等

- ・いつでも、誰でもが気軽に立ち寄って心や体の相談ができる「まちの保健室」や、地域の子育て支援拠点である「コラボカフェ」の運営、及び、妊娠20週以降の初産婦とパートナーを対象に、沐浴や妊婦体験等を行う「プレパパ・プレママセミナー」の開催など、多様な活動を実施し、地域住民との交流や健康増進に資する活動を実施。



コラボカフェの様子

(2) リカレント教育

- ・復職・就職を目指している方、非正規雇用から正規雇用やキャリアアップを目指す方、新しい職場を探している方の学び直しを支援。

5 内部統制 (11頁)

(1) 内部統制システム整備の経緯

- ・令和4(2022)年度に、学生や講師の処遇に関する手続きの不備や公益通報制度の未整備などについて指摘する内部通報が本学の監事であり、監事による臨時監査が行われた。
- ・監査の結果、業務方法書に定める内部統制システムや業務マニュアルの未整備、規程と実務の乖離など、業務全般にわたる指摘を受けた。

(2) 内部統制システム整備の方向性

- ・組織や規程、事務プロセス及びリスク管理など、内部統制の構成要素となるものを集中的かつ総合的に見直し、大学の使命をより有効かつ効率的に果たすことのできる組織づくりを行う。

(3) 取り組み状況

①これまでの取り組み

- ・内部統制システムの整備概要を作成して学内に周知するとともに、大学の現状・課題の把握のため、教職員にヒアリングを実施。合わせて全教職員アンケートを行い、その結果について学内に周知。
- ・公益通報制度の整備。
- ・事務局の専門性・継続性の向上のため、正規職員の採用を行った。

②現在の取り組み状況、今後の取り組み

- ・大学幹部による内部統制会議を3月に設置し、月1回内部統制システム整備の進め方や委員会のあり方等について協議。
- ・今後、内部統制会議において主要課題の検討を行い、内部監査やリスク評価といった内部統制のモニタリング機能を設計し、これらを運用する体制を整備することにより、内部統制システムの有効性を担保する内部統制規程を制定。